探訪 ながわ 80

那珂川町郷土史研究会

共栄橋下流・伏見神社周辺

裂田溝 7

共栄橋下流には井尻井堰と椿井堰の二つの井堰があります。

井尻井堰では5月31日午前8時、井尻区の農事の人たちにより神事「井手あげ」が行われました。

「井手あげ」は、区の農事の人たちが水門を清掃して御神酒を注ぎ、水の恵に感謝し安全を祈願。その後、水門西側の高台にある五穀神にお参りして五穀豊穣と田植えの無事を祈り、水門近くの家に移動してお供え物を頂きながら直会を行うものです。

五穀神には、次のような話があります。

「昭和20年代後半、田植えの時期になると決まったように大雨や風が吹き荒れ、田植えができない年が3年続きました。

当時、井尻区の五穀神は他所の地区の山中に立っていて、しかも、成竹区の方角を向いていたそうです。そこで、井尻区を見渡せる現在地に移してお祭りをしたところ、翌年から天候がよくなり無事田植えができるようになったということです」

椿井堰では6月7日午前6時、山田区の農事、水利の役員の人で神事が行われました。神事は水門を塩で清め御神酒を注ぎ、水の安全と五穀豊穣を祈願して、水門が開けられます。

放水された水は、町道を横切り民家の横の水路に流れていきます。

昔ここには、豊富な水量を利用した水車屋があり、昭和4年には7馬力の「水力タービン」を設備した精米工場に変わりました。当時は、五ケ山からここまで30kgの玄米を背負って、1日がかりで米つきにこられていたそうです。今では赤く塗られた「水力タービン」の跡が残っているだけです。また、昭和5年から13年頃まで、精米所に隣接して製氷会社がありました。ここでは50馬力の水力タービンを動力源として、那珂川の水で氷を作っていました。ここで作られた氷は「かき氷」用として、福岡市では大変好評だったそうです。

ここから水路は、国道385号の下を横切り旧道「肥前・筑前街道」と並行して、山すそを通り北へ流れます。水路は伏見神社裏まで来ると二方向に分かれ、一方は近くの田んぼと神社の池に入り、さらに裂田溝の取水口下へと流れ込みます。もう一方は、神社裏から東へ、山田の五穀神を祭る山すそを通り、※高橋善蔵の墓がある丸尾をぐるりと巡り、東側の田んぼを経て、八田橋下の裂田溝へと流れ込みます。

次号は、一の井堰と上流の伝承を紹介します。

※高橋善蔵　農功者　貞享元年（1684）山田生まれ、宝暦11年（1761）当地で死去。

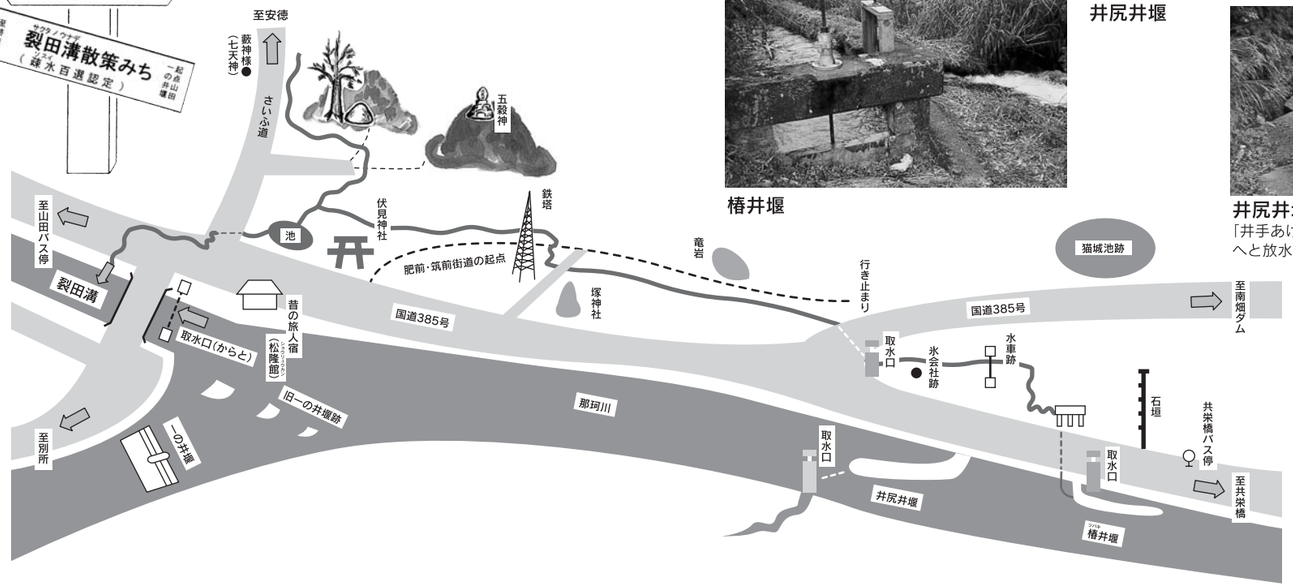
不作や飢饉等に苦しむ農民のために、安定して収穫できるハゼの栽培法を広め、荒廃した農村と逼迫した藩財政を立て直す原動力となった人です。延享4年（1747）、ハゼの栽培書「窮民夜行之珠」を著しています。墓には遺言どおりハゼの樹が植られ、墓石として銘もないオニギリ型の石が置かれています。

椿井堰
水門開き神事

結城家に残る
（水カ タービン）跡

山田五穀神
明治十二年六月社日（1879）

農功者　高橋善蔵 墓



椿井堰

井尻井堰

井尻井堰
「井手あげ」の神事後、井尻地区の田んぼへと放水される

井尻五穀神
安政六年□月吉日（1859）